

南阿蘇村 復興むらづくり だより



復興推進課
TEL (67) 1113

■「立野地域フットパスモニターツアー」開催



小雨が降る場面もありつつ、立野をじっくり歩いた参加者

4月14日、地元有志で構成される「立野わかもん会」の主催で「立野地域フットパスモニターツアー」が開催されました。

これは、熊本地震で被害を受けた立野地域の現状や復興の様子を知ってほしいとの思いで企画されたイベントで、当日は22人が参加し立野わかもん会メンバーの案内を受けながら災害公営住宅や復旧工事中の神社などを通るルートを歩きました。完成したばかりの災害公営住宅馬立団地では集会場に休憩所が設けられ、ニコニコ饅頭で作られた試作品のスイーツが、地元女性によりふるまわれました。

フットパス後はバーベキューで地元の野菜やあか牛などがふるまわれたほか、地域を歩くなかで撮影した写真のフォトコンテストなども行われました。

■「2019南阿蘇・黒川ウォーク」開催

熊本地震で被災した東海大学阿蘇キャンパスがあり「学生村」と呼ばれていた黒川地区。当時の被害の爪痕や3年経った復興状況などを広く知ってもらうおうと、「南阿蘇・黒川ウォーク」が4月21日に実施されました。このイベントは地域住民や東海大学の学生による実行委員会が主催したもので、昨年に続いて2回目の実施となりました。

当日は村内外から約90人が参加。旧長陽西部小学校を出発して黒川地区の集落や阿蘇大橋崩落現場などを巡る約3キロのコースを、有志ガイドの案内で4班に分かれて歩きました。

歩いたあとの参加者は地元の方とお手製の高菜めしやのっぺい汁の昼食をとり、東海大学による昆虫展やVR体験、震災当時の写真の掲示などを見学して学生や地元住民との交流を深めていました。



①ガイドの説明を熱心に聞く参加者
②黒川地区の皆さんによる昼食のふるまい

■「すがるの里復興弁当試食会」開催

4月22日、黒川区の女性たちで4月14日に結成された「すがるの里」による、東海大学生を対象とした復興弁当の試食会が開催されました。

当日、東海大学阿蘇キャンパスには実習で訪れた応用植物学科の学生約70人と、先生たちや関係者も試食し、用意された100食のお弁当は完食となりました。お弁当はメインのから揚げに地元野菜を使った煮物と漬物、白ごはんといった内容で、試食した学生たちからは「とても美味しかった」「おばちゃんたちの愛情を感じたなど喜びの声が上がっていました。

今回の試食会で実施されたアンケート結果を踏まえ、実習に訪れる東海大学生へ5月27日から本格的に、週1回のペースで手作りの復興弁当の提供が始まります。



学生達へ手渡しで復興弁当を配布する「すがるの里」の皆さん